



協力隊通信

家財 綾
加藤 絵美



移住者インタビュー⑤高橋麻紀さん(小白川)

2018年9月に神奈川県から移住された高橋麻紀さんをご紹介します。麻紀さんは夫弘和さんの出身地である飯豊町にIターンしました。現在は、弘和さんとともに西置賜の情報サイト「まいぶれ長井」を運営されています。移住までの道のりや移住後の生活などについてお伺いしました。

―移住のきっかけを教えてください

2人の娘が独立して夫婦2人の暮らしになった時、これからの人生を考えてみました。サラリーマンで働いていた夫は当時50代前半で、定年までまだ時間がありました。一方で、飯豊町で暮らす夫の両親は健在とは言え、80歳を超えています。横浜には持ち家がなかったので、今後のことを考えると、夫の両親を横浜に呼んで一緒に暮らすのが一番簡単な方法でした。しかし、両親にとって、自分たちが生まれ80年以上を過ごした飯豊町から離れ、横浜に住むことが幸せなのか？という疑問や迷いがありました。横浜に引っ越したら、友だちは一人もいない、方言が気になって無口になってしまうのではないか、家にこもりきりの生活になってしまうのではないかと、そう思うと、両親にとってもいいことは何もないと考え直し、私たちはまだ新しいことを始めるにも力はあるかと思ひ、私たちが飯豊町に移住することを考えてみないかと夫に提案しました。

―現在の仕事について教えてください

夫はいったんIT企業に就職しましたが、「せっかくなので飯豊町に来たのだから、自分で何かやってみよう、町のために何かやりたい！」という思いから会社を退職。飯豊町を含む西置賜の情報を発信し、地域の魅力を紹介して訪れる人が増えるように、地域情報サイト「まいぶれ長井・西置賜」を立ち上げ、私も一緒に取り組んでいます。移住者

だからこそ新鮮に感じる景色の美しさ、この地域に暮らしてきた人たちが普段見慣れている町の魅力に、再度、目を向けてもらえたら嬉しいなという思いで情報発信しています。ランチ情報なども発信しているので、今まで行ったことがないお店を見つけて行ってもらえたらうれしいです。置賜地域にはいろいろとおいしいお店が隠れていますよ。

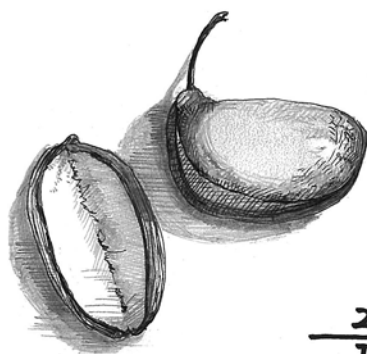
―移住して困ったことやびっくりしたことはありますか

結婚して約30年、毎年夏冬は飯豊町に来ていたので、地域の人の顔を知っていましたし、方言を聞くことも抵抗ない状態で移住しました。ただ、結婚した当初は、夫の祖父母も交えた会話の中で方言を聞き取ることができない、何の話か分からず、みんなが笑っていることに全く笑えないなど、方言に慣れるまでは心配もありました。現在は当時より方言も柔らかくなっているのですが、慣れてしまえば全く問題なく住むことができると思います。

―飯豊町の魅力は何ですか

自然豊かでおもしろいものが多いっばい！都会から来た人間としては、四季を感じられるのが飯豊町の素敵な所だと思います。冬はたくさん雪が降り、一面に銀世界が広がります。春になり雪解けが終わると、水を張った田んぼが朝日でキラキラ輝く。日を追うごとに苗が伸びて緑一色になった田んぼでカエルの大合唱が始まり、暑い夏が

やってくる。秋になると稲穂が垂れて田んぼが黄金色に変わり、収穫の時期を過ぎると初雪がちらちらと降ってくる。季節の変化を目で、そして匂いで感じられるのが飯豊町だと思います。―高橋さんありがとうございました。一緒に町の魅力を発信できたら嬉しいです。



飯豊町日記

2021.11
Iide Diary

今年はずいぶん雪が降った。肉づきがほろ苦くこまめ美味しいと思います。

加藤 絵美